

《第69回》平成三十年十二月の作品

〈十二月十四日（金） 於文京シビックセンター5D〉

ラリックの玻璃の引戸よ冬館
（隆治）

左官屋の鏝の調べや十二月
（一江）

朝食に鮎の甘露煮冬ぬくし
（平六）

鯛焼きや祖母の笑顔の浮かびくる
（清助）

五昔^{せき}ぶり銀杏黄葉の樹下歩む
（正雄）

立山の脊^{せきりょう}梁^{りょう}沿^えひを冬^{ふゆ}銀河
（前歩）

告別

月冴えてピエロ舞台を降り^りにけり
（正佳）

寡暮^{さむら}らしの友連れ出して年忘
（孝昭）

寒柝^{せき}の音遠^{とほ}のきて白き月
（奉男）

背を撫^{なで}でることく冬日の温かし
（芙沙）

侘助^{わすけ}を一輪挿^さして客を待つ
（貴美）